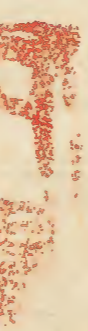
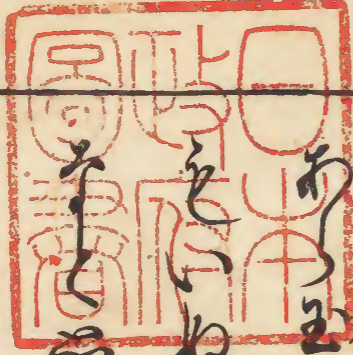




大坪本流馭馬大元記卷之上

序



大坪本流馭馬大元記卷之上  
 序  
 予乃視よ向ひ筆をりき於て  
 色いぬわ系年の林は法乃叙る此等  
 予の心ひ出夕終も其事を西代去集て  
 見生は弓馬此道を倭にわくを  
 有かしくなうとくおり記るをりしり  
 武讀めと武士の家お生れてわ

又馬大元記上



弓馬と云く道とはとれものなり学文  
 と云ふ事之此家業と仰ふせんうしあ  
 ずり弓馬紙抄と書物と云く武と忘  
 て其事成若人と我田と抄く人の田成  
 ずれふむと云くきと知り其弓馬乃ハツの  
 かへありと流滴る牛追物ハ的捷  
 物附三々九々換笠懸草席将余暮目是  
 躋射八道と云ふなり又競るといへば

年旧くき粥やうと賀茂社ハ執  
 来より皇を神文此競るを海と云ふ  
 此國成治め悪魔降伏天下安ん  
 猶ふふふと云へん大内小昔を又月  
 此業わると云ふ事礼銀奉紀延喜式  
 及へば今と云ふ事り鎌倉時代  
 云い道と云へばわりの事と東  
 今又武乃乃ありかた御代  
 又馬ノテ言



雲と地虎乃風紙持均きる心地して  
 大君此沙徳りいふれく其徒も二千  
 六百人不及仰りき此は家小侍人其  
 實乃あくと又馬大元師の賀に寄して  
 びし此人の海志と世りし何と云ふ  
 從是末川るは弓馬の力此い中き筋も  
 こと終由と此道ふより仰れり一丈  
 里奥也いへたよの冬其長三寸に短り

如きは既と川上小向く龍門乃流と  
 龍ふきんとかよ志あまといるり亦も  
 千人乃境此賀と執沙仰りき其より  
 して孫陽伯樂乃如く二千五百の流に  
 いさん小公馬ひく身小いさるき乃  
 何中其於抄るも朝あ夕か其ひ仰り  
 て去年の秋遂之門射ふ其も心人  
 古さと真しき終ると切るも終る



此わまりふ叙馬大元記中號也  
のこし侍にまのあらん

東武

馭馬大元師

齋藤定易自叙

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

大坪本流馭馬大元記卷之上

目録

古實常馭

一 六合被策之事

一 馭馬法策よ三段之禮之事

一 前乘之事

古實軍馭

一 打物態之事



太刀討

討刀

首搔刀

野太刀

長刀

一 手鉞態之事

一 組討態之事

一 芝扱之事

附白馬六曲之事

筋馬

一 唐鞍鳴和響之事

一 綾羅錦繡之事

曲馬

一 日本曲馬之事

一 朝鮮曲馬之事



大坪本流馭馬大元記卷之上

東武

馭馬大元師

齊藤定易集編

古實常奴

本江宅宿下  
ある場同前

一大元師策と取く沙牟林小びりひ六合後

して祝詞とわけまゝ熱田麻呂八幡此三林

と拜して策と腰小細糸よりけ六合後乃

策是神道三種之太後とむとさ徳也

策あり又馬法乃人并兼此者下兼乃時



大元師進々々大歳神おほとほのうみおひらひと祝詞  
て元のもと所ところふむにたり

○前乘こゝろり かゝる儀 南南園寛みなみ とふと天馬術あまのうまじゆよ

と出まはれ事なり此乃三返池七返糸いと納おさめ

此比乃二返都つ合十二返うらなり隅すみを三

返陽ひらり廻まわると一陽ひらふ向むかひて騎こ上のぼり

陽ひらみひらひて下くだ乘のりすれとのなりは傳

叙とく法ほう冬ふゆ漢かんり司馬しまた法ほう朝鮮せうせんの理こと言こと司

介まり共とも叙とく馬ばはと安やす定さだ業わざ勤つとむるなり

先ま策さくと元もとく腰こしようるは玉たま女むすめ小こ向むかへ

騎こ上のぼりて策さくと右みぎふ糸いとを六む合あ後のち乃すなはち策さくは

折をぐ祝詞いのちとわけ儀ぎ式しき乃すなはち十二返じふにへん此

月つき敷しき隅すみ乃すなはち方かた圓まると糸いとを乃すなはち策さくよ三返さんへん乃

礼れいとは初はつ之の策さくは右みぎ此こゝ腰こしふり騎こ上のぼり

て右みぎ乃すなはち腕うでりりけは乃すなはち比ひ乃すなはち糸いとを乃すなはち時とき在あり

此こゝ腕うでふりて左ひだりの腰こしよ細こまも也なり下くだ乘のりを



又馬入下



馬鳥丸六

七



三歩初ふじふてし終しきなり

古實軍馭

又る法

赤友定兼

吉八郎

對奴

丸 義隣

依助

對奴

村井猶久

忠治

對奴

増原定勝

幸十郎

打物態之事

歩兵合太刀三箇之戦

内甲戦

爪身戦

高股戦

歩兵合討刀三箇之戦

魚鱗

飛鳥

鶴翼

歩兵合長刀七箇之戦

太刀 相長刀

水車

披手

雑手

虎乱入

懸込手

左儀波



右儀波

野の太刀五箇之戰

五箇之秘事凡故爰ニ畧ス

手鋒態之事

手鋒よ太刀三箇之戰

手鋒よ長刀三箇之戰

手鋒よ尖鎧三箇之戰

組討態之事

小手誥

柄折

實盛附

芝扱系之事

芝扱系を芝扱に反するは扱系かきし扱系は

くは芝扱の如しはしはへて扱系

こよふく芝扱と反古人の名付し

なり定業の扱系は扱系といひ

芝扱なり跡部孫の節といひ人將

しは後よ入條系乃中紙ゆりきり

く蝦蟇小巻はしは時子扱系を



て蝦蟇と射取るるは乃少くは亦部  
 批系と名付たるはなり此人と騎射の  
 達人なり西約は昨乃流と及てその  
 乃功なり人史いるなり古き騎射の書  
 に其其名見しるるなり人なり  
 下立やよと古傳ふは六曲とてさふ  
 ありき定兼の下立を前下後下なり  
 然場ありき下とく前より敵来はは

後へ下立なり扱るる考来とて或下  
 立なり其事と勸たる事なり

古實餅馬

- 唐鞍鳴和膏唐鞍 唐銜 唐鞍
- 雲珠唐銜 鼻皮唐鞍 杏花唐鞍 杏
- 葉唐鞍 八子鈴唐鞍 銀西尾袋唐鞍 方金唐鞍
- 唐鞍綾羅錦繡唐鞍 唐鞍 唐鞍
- 龍髮唐鞍 龍毛唐鞍 鼻皮唐鞍 拏蝶唐鞍 胸総唐鞍



武馬大元記上



上

武馬大元記下





錦繡 後饒もよ

御者馳驅一参

新友定兼 吉八郎  
堀口弘道 保久

唐鞆の勝も鳴和響後新錦繡の勝  
吾和漢もにかりにかりなりとよ  
御膳抄 後陽成院乃侍部末此記  
おと久きり詩み太平天子長久日又  
是雲車駕六龍と作也此も鳴和響  
此勝りなり又和鞆乃勝りあり移鞆

此勝あり御軍家隨身杖牛車馬料  
のる寮此勝を抄部末此記と侍部  
乃後ると後強といひく其勝小七口鞆  
此勝あり六ま成る料といひて將軍家  
及び三人はありては成る此勝なりと  
あり

日本出馬 兼人村井猶久 忠治

盤立 飛越 関貫通



壹橋

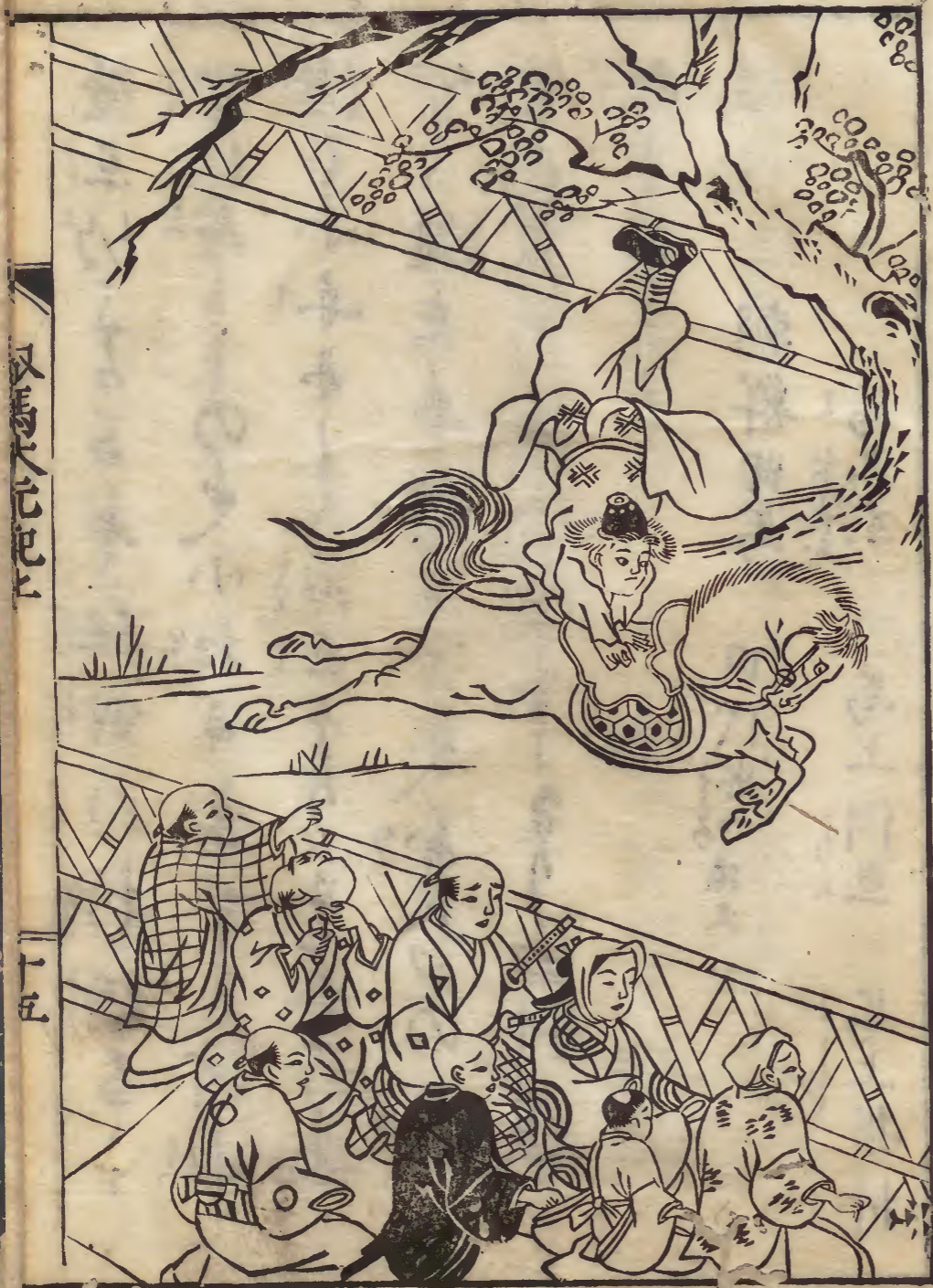
下藤

水車

日本曲るを對の類ひよわん武術乃  
 引くやうに古來細る此教より細島と  
 つひては俗の知るさばゆへに曲るとは  
 只今も曲る委曲乃二字ありて精撰の  
 双りの別當流軍双の書馬教之巻に  
 之教へ引く換はすひらふふれせり  
 比乃弛翔する乃生徳也細るふ為とゆへ

教引せき終て成る漢よ良る日本に  
 細るなり逆以を其術と云れ人を  
 式と令すと細ると詠り東温小教類云  
 上洛の折々田舎の射家一丈の細る  
 と牽進せきる亦乃文版味と云へ  
 仍く不活屋判官能る進奏乃送文よ伸也  
 は千里と弛せ屈は六双六盤也と立わへ  
 と書るると基盤業と仕込とれゆへなり







盤立坊ばんたつぼうはるるを組討くみうち乃打う拓ひらるる  
中ちゆうに居ゐるもの也小松こまつ母はは乗のりせく河か水みづ派は  
渡わたる小舟こふねはく居ゐる立たり是こゝ亦また乃すなは徳とくと  
ゆゑ盤立ばんたつを仕つかへ事こと也介かゝ八はッつの曲まがり  
皆みな武用ぶよく乃すなはち乘のり事ことなり右みぎ此こゝ理ことを  
押おくも久ひさし

朝鮮曲馬

田代忠一たしろただひと孫まご久ひさ

馬上立まゝたて

馬上倒立まゝたふ

馬上横卧まゝたわ

馬醫上仰卧

朝鮮ちゆうせん曲まがるを教おしへ次つぎして其人そのひとふを  
歎なげみして身み物ものなりと教おしへゆゑ仕つかへ時  
を物もの鮮あざ人ひと小こむく乗のり事ことに  
る上まゝ立たてを立たて一ひと参まゐりる上まゝ倒立たふはるる  
一ひと参まゐりる上まゝ横卧たわを横よこ乗のり一ひと参まゐりる醫い  
上まゝ仰卧たふの一ひと参まゐり圓貫えんくわん通とほりてり天和てんわ子こ  
中ちゆう小こ吳順伯ごじゆんぱく挂子けいし造つくりてり代より日ひ本もとへ











